令和7年度　学校評価

長崎市立仁田佐古小学校

1　教育目標

豊かで、たくましい心身をもち、「自ら学び、自ら行動する」子供の育成をめざす。
「すなおな子　すこやかな子　すすんで学ぶ子」

2　学校経営方針

○　児童の命と心を預かる学校の職員としての責任の重大さを認識する。
○　職員一人一人が、学校経営の一翼を担っていることを自覚する。
○　具体的な実践を通して、本校教育目標の具現化を図る。

3　重点目標

○　家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図る。
○　すこやかな心と体を育成する。
○　確かな学力の向上を図る。

4　自己評価

領域	項　目	質 問 内 容	アンケート集計 肯定的割合（%）			分析及び改善策
			生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	85%	87%	94%	・教育目標の達成度は、3者とも85%以上の肯定的評価となっており、概ね達成できていると捉えている。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	90%	91%	94%	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			94%	
	業務改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			94%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	84%	87%	93%	・心の教育に関しては、児童の肯定的評価は昨年度よりも数値の伸びがみられたが、保護者の数値が減少傾向にあった。特に『「あ・は・は運動」を知っている』の肯定的割合が大きく減少しているので、今後周知していく必要がある。 ・悩みや相談への対応については、今年度も保護者の評価が80%を下回ったため重点課題であると捉えている。
	生活・生徒指導	挨拶をよくしている	84%	84%	69%	
	生活・生徒指導	「あ・は・は運動」を知っている（小学校のみ）	80%	66%	94%	
	生活・生徒指導	教職員は悩みや相談に親身に対応している	92%	76%	94%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93%	83%	94%	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96%	82%	87%	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	92%	92%	94%	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94%	87%	94%	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風の実態に即した教育を行っている	88%	94%	94%	・わかりやすい授業については、3者とも肯定的割合が増えている。その中でも職員の伸びが大きく、校内研等の取組みにより、意識改革が進んだものと思われる。 ・家庭学習の習慣が付きつつある。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	96%	88%	94%	
	学習指導・教育課程	家庭学習の習慣が身に付いている	85%	76%	94%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	88%	80%	88%	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	92%			
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	92%	89%	94%	・基本的生活習慣については、保護者への啓発により、保護者の肯定的割合が昨年度より増加している。
	体力向上	基本的生活習慣が身に付いている	78%	91%	94%	
	体力向上	体力向上に努めている	87%	78%	94%	
	食　育	食に関する教育活動を行っている	87%	81%	88%	

信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	86%	87%	94%	・昨年度の課題であった児童の地域との連携は徐々に向上してきている。 ・職員の資質向上については、校内研の充実から、昨年度よりも肯定的割合が大きく向上している。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	88%	88%	88%	
	PTA・地区との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	70%	91%	81%	
	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している			87%	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	75%	84%	94%	・清掃指導は、無言掃除を年間を通して取り組むことで、少しずつ改善してきている。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			88%	

５　自己評価のまとめ（成果・課題・対策等）

・昨年度と比較すると、肯定的割合が向上しているものもあれば、減少しているものもある。全体的にみると、向上している割合のほうが多く、学校全体としての向上がみられた。しかしながら、肯定的割合が８０％未満の項目が１０％弱あり、それらの改善を図ることが来年度の課題である。
・３者の肯定的割合に大きな隔たりがある項目もあったため、丁寧な指導とその周知を行っていくことで、差を埋めていきたい。
・校内研の充実により、ICTの活用が大きく進んだことが、授業改善につながっている。来年度も継続して授業改善を進めていく。

６　学校関係者評価

・挨拶については、挨拶を返してくれる児童と返さない児童の差が大きいという話があり、家庭での指導も影響しているのではという意見が出された。ただ、挨拶をする児童は増えてきているという好意的な意見もあった。
・ICTの活用により、授業改善が進み、児童の学ぶ意欲や教職員の指導力向上につながっていることは望ましいという意見が多くみられた、ただ、AIの使い方について、本を読む児童や字を丁寧に書く児童の減少について心配する意見も出された。
・地域行事等に児童が参加できるよう、事前の通知や日程調整を行う自治体もあるということだった。

７　対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

・挨拶については、学校内外で「挨拶には挨拶を返す」という指導を行っていく。
・ICTを活用する場面とそうでない場面を来年度の校内研等で研究を深め、児童の学力向上につながるようICTを活用する場面の精選を行っていく。また、読書活動の充実や字を丁寧に書く指導は、継続して行っていく。
・貴重なご意見を多くいただいたので、児童のさらなる成長のために改善できるところは改善し、学校教育目標の達成につなげていく。